



福岡ゾンタクラブ



運命的出会い
会長
中村クミ

振り返りますと、この一年が、私自身の人生の中で最も意味ある年となりました。

北九州ゾンタクラブのご縁を頂き、ゾンタを知り、女性のエンパワーメントを目指す会を立ち上げる、それは私個人として、会社経営の中から、もっと女性の地位が認められ、女性に自信を持ってもらいたいと思う日頃の思いの延長線上で、お話を頂いたこと、それこそが運命とさえ思えます。

ですが、どのように活動していくのか、会社ではなく、ボランティアの会の運営には戸惑い、学びが多くありました。

そして、高島市長をはじめたくさんの方々の来賓の方々をお迎えしての認証状伝達式を無事に終え、どれだけ私たちの自信に繋がったかと実感しています。

福岡ゾンタクラブ会員それぞれが活動を通して、政治や経済、周辺的生活へ目を向ける、先ずはそんな機会を頂けることがゾンタクラブに所属する意義があると思っています。

私は会長として、各地のゾンタクラブの会合で様々な行事に立ち合い、福岡ゾンタクラブ会員に、もっともっとゾンタクラブの世界を知ってもらいたいと思うようになりました。

先輩方が築かれた歴史、そして私たちが築く新しい未来、自分のものとして、先ずは会員一人一人の心に火を灯すことができるよう、残す二年間の会長職を責任を持って、果たして参ります。

心から、この素晴らしい仲間に出逢えたことに感謝致します。



一年を振り返って
副会長
丸岡恵理

昨年6月に、世界で1936番目、九州で2番目のゾンタクラブとして、福岡ゾンタクラブが誕生しました。

中村会長の呼びかけのもとゾンタクラブの理念に賛同し、何か私達に出来ることはないか、との思いで、26名のチャーターメンバーが集まりましたが、何をすることも初めてで、わからないことばかりのスタートでした。

SOMクラブである北九州ゾンタクラブの木下AD、田島会長、皆様のご指導、お力添えのもと、次期国際会長のソニア様をお迎えしての認証状伝達式、中丸三千繪さんを迎えてのチャリティーディナーショー、村上祥子先生によるローズデー記念講座を行う事ができました。

このような活動をしていく中で、女性が活躍している社会を目指し頑張ってきたゾンシャンの方々の様々な思い、考えを聞くことが出来たことは、私にとって、貴重な経験になりました。

子供の虐待や貧困、DV問題など、私たちの身近にも、女性・女兒にとっての様々な問題があります。一人一人の力は、微力ですが、ゾンタの一員として、ゾンシャンの方々と共に、女性の為に、今何をすべきか、「女性の輝く社会」、「女性の地位向上」を目指し、福岡ゾンタとして、何が出来るかを考え、活動を続けて行きたいと思えます。



福岡ゾンタクラブ認証状伝達式を終えて

6月1日に福岡ゾンタクラブが誕生し、10月23日の認証状伝達式までわずか5ヶ月弱と期間が少ないまま、準備が始まりました。当初は、ゾンタクラブの活動内容や組織の内容も、よく理解していない状態でとても不安な中、SOMである北九州ゾンタクラブに何度も足を運んで頂きながら、私たちの気持ちが次第に「成功させよう！」と共通の目標に向かって心が一つになっていきました。

当日は、次期国際会長のソニア・ショウ様もお見えになり、全国のゾンシャン約50名も参加していただき、更にはご来賓として福岡県知事、福岡市長、県議、市議等、また各界の代表なども多数ご臨席を賜り、式典158名、祝賀会153名という、盛大な認証状伝達式を終えることが出来ました。

祝賀会はアンサンブル・ピウさんの演奏もあり、会場をさらに格調高く盛り上げてくださいました。また、印象的だったのが、高島市長が「祝賀会まで残ってお料理を頂いたのは初めてで、異例なことだ！」とご本人も楽しんでおられた事でした。

式典終了後、ソニア夫妻をはじめ、全国のゾンシャンと共に博多人形師の中村信喬氏のアトリエを訪問、その後観山荘に移動し、福岡ゾンシャンの星子による書道のデモンストレーションを披露、そして和食を堪能しながら、和やかに食事会を楽しみました。

翌日のエクスカーションは、太宰府天満宮、国立博物館、参道散策と、日本の文化を味わっていただき、ソニア夫妻やゾンシャンの皆様を空港まで見送りました。

無事に帰路につかれる事を祈り、手を振りながら、今まで味わったことのない安堵感や達成感を味わっていました。

会員委員会 黒木周子



中丸三千繪ディナーショーを振り返って

6月1日に正式に福岡ゾンタクラブを設立し、その記念イベントとして2015年7月12日西鉄グランドホテルで中丸三千繪チャリティディナーショーを行いました。215名の参加者のもと、司会・加藤晃子の流暢な英語による挨拶で始まり、格調高いスタートを切りました。中丸三千繪さんの瞬時に会場を包み込む魅力ある声量は、魂を揺さぶられる心地で、来場の方々も堪能して下さった事と思います。また、小川福岡県知事夫人をはじめとする来賓の方々や、国際ゾンタ26地区から豊田ガバナーをはじめ、沢山のゾンシャンに来ていただきました。

特に心強かったのは、SOMである北九州ゾンタクラブの皆様、運営の面やご来賓のことで何度も相談し、その都度ころよく教えて頂いたことです。そのお陰で福岡ゾンタの仲間同士も、このような活動を通してチームワークや絆を深めることの大切さを再認識し、皆が目標達成に向かって、ベクトルを合わせる喜びを実感できたと思います。

広報委員会 納富輝子

特定非営利活動法人 SOS こどもの村を訪れて

SOS子どもの村JAPANは家族と暮らせない子どもたちとその危機にある子どもと家族のために活動している認定NPO法人です。2016年1月21日、兼ねてより訪れてみたいと切望しておりましたSOS子どもの村への訪問が会長を始めとする数名の有志により実現しました。

そこでは育親と3~5人の子どもたちが一軒の家で、本来の親子兄弟が日常生活を過ごす様に、一つの「家庭」を成しています。育親は一家の母であり、献立、団らん、生活の方針等、家庭の個性が尊重された生活が送られています。

このスタイルは国連子どもの権利条約に基づき運営されています。「家庭」で育つ事は「子どもの権利」とうたわれているのです。

この世に生を受けた子供達は皆、この当たり前前の権利を等しく与えられ、経験すべきだという考え方に私たちは心から共鳴し、福岡ゾンタとしてのこれからの支援に意義を感じる訪問となりました。

アドボカシー・奉仕委員会 末永弘子

村上祥子氏 ローズディ記念講演会

3月5日に開催致しましたローズディ記念講演会は、料理研究の分野でご活躍中の村上祥子氏に、「早・うま・簡単」ちゃんと食べて、ちゃんと生きるというテーマで女性としての人生観と食の大切さについて講演と実演を披露して頂きました。飽食の時代に生きている私たちは、食の理屈を理解はできていても、ちょっと気を抜くと食事の取り方が偏ったり、それが原因で生活習慣病にかかることもあります。幸福な人生を送るには健康が第一、そのためには食育はいかに大切かを改めて考えさせられました。栄養バランスの良い、簡単に作れるヘルシー料理の実演がとて為になる講座となり、美味しい食事をいただきながらご出席された皆様が有意義で楽しい一時を過ごす事が出来ました。

会員委員会 西岡明美

北九州ゾンタクラブ (SOM) との合同例会

設立時、ゾンタクラブに関しては無知なことばかり、その上まだ良く馴染めない会員同志、何をすることも時間がかかり、戸惑うことも多々ありました。SOMクラブは、一年目の私達に例会を通して実際に学べる機会をと考えてくださり、合同の例会を二回行いました。各委員会の活動報告、告知の内容は盛りだくさんでありながら、テンポよく進行し、時間内に終了するという非常にスマートで無駄の無い印象を持ちました。お会いすると必ず沢山のことを学びます。そして、妹分である私達が自助自立できるよう、暖かく見守ってくださることにいつも感謝しています。

書記 本多光美

エリアミーティング (岡山) に参加して

4月16日岡山で開催された第8回エリアミーティングに3名で参加しました。

午前中は認定NPO法人国連ウィメン日本協会理事長 有馬真喜子様を講師に迎えた基調講演「アドボカシーを通して女性のエンパワーメントを推進しよう！」午後からは、パネリストに有馬理事長、そして三角佳子様、神戸真理子様が行ったワークショップがありました。

有馬理事長のお話のなかで“Think Globally, Act Locally” “地球規模で考え、足元から行動しよう” というお言葉がありました。まず大切なのは身近なところから一歩を踏み出す事だというお話は今後の活動において指針となる重要な事だと感じました。また午後からのワークショップでも、アドボカシー活動は毎日の小さな行動のなかでも出来る事があり、疑問を持つ事からスタートし、何が出来るかを考え行動する。その為にも個人レベルの力を上げる必要性を感じました。

熊本地震直後の不安なかでの参加でしたが、先輩ゾンシャンに刺激を受けた有意義な1日でした。

会計 前田廣子